

乳がん検診のすすめ

乳がんは、無症状のうちに検診を受診すれば早期発見につながり、適切な治療によって治癒の確率も高くなります。

1 乳がんの状況

わが国では、1 年間におよそ 53,000 人の女性が乳がんと診断されています。乳がんの特徴は 40 歳から 50 歳代の女性に特に多くみられることです。40 歳から 50 歳の乳がん発生率は、この 20 年間で約 2 倍に増加しています。乳がんで亡くなる女性は 1 年間に 12,000 人で、40 歳から 50 歳代の女性におけるがん死亡率の 25%を占めており、この年代の女性にとって最も多いがん死亡原因となっています。

2 乳がん検診の方法

乳がん検診は 40 歳以上の女性に、2 年に 1 回受診することが推奨されています。

乳がん検診として「効果がある」のは「マンモグラフィによる検診」です。視触診単独は「死亡率減少効果はなし」です。超音波検査では死亡率減少効果は不明ですが、40 代の女性を対象にマンモグラフィと視触診に超音波検査を追加することで早期乳がんの発見率が有意に高値となったとの報告があります。

・乳房エックス線検査(マンモグラフィ)

視触診では発見できない早期のがんが発見可能になります。特に石灰化のある乳がんの発見に適しています。

・視触診

医師が乳房を診察ししこりの有無を判断します。ある程度の大きさがあるしこりに限られるため、単独では検診として効果がありません。

・乳房超音波検査(エコー)

視触診では発見できない小さながんが発見可能になります。乳腺の発達した人や、若年者に適しています。

当協会では 40 歳未満は超音波検査、40 歳代はマンモグラフィ、超音波検査を隔年、50 歳以上はマンモグラフィをお勧めしています。

3 乳がん検診の精密検査

検診で「異常あり」という結果を受け取った場合は、必ず精密検査を受けてください。

乳がん検診における一般的な精密検査はマンモグラフィの追加撮影、超音波検査、細胞診、組織診などで、これらを組み合わせて行います。

- ・マンモグラフィ検査

疑わしい部位を多方向から撮影します。

- ・乳房超音波検査

超音波を使用して、疑わしい部位を詳しく観察します。

- ・針生検下の組織診

疑わしい部位に針を刺して細胞や組織を採取し、悪性かどうか診断します。